

令和4年度 第2回静岡市自然の家運営協議会 議事録

1 期 日 令和5年1月～2月【書面開催】

2 出席者 【委員】

加藤委員、中山委員、遠藤委員、森山委員、宮原委員、喜瀬川委員、八代委員、堀委員
森主委員、脇坂委員、櫻井委員、服部委員、久保田委員、光後委員、菅沼委員

【事務局】

〈教育局〉

中村局次長

〈教育総務課〉

加藤課長、植村係長、増田主任主事

〈南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家〉

齊藤所長、岩科主幹兼次長、中曽根指導主事、木下指導主事、鈴木主事

3 議 事

(1) 報告事項 ※ 清水和田島自然の家は一時休館中のため、井川自然の家のみ報告。

① 令和4年度 第1回運営協議会提言後の取組について

② 令和5年度 利用予定校及び利用団体

③ 令和5年度 主催事業計画【案】

(2) 協議事項「防災にもつながる自然体験活動プログラムについて」

①「令和4年度第1回運営協議会提言後の取組について」

【提言1・コロナ禍でも利用制限や活動内容の工夫をすべきではないのか】

- 感染のリスクと利用者の拡大という大変難しい局面であるが、全体的にバランスのとれた取組である。
- コロナ禍の中、何とか貴重な体験の場を提供しようと腐心されている。
- 完全な感染対策はないが、施設としてできることをしっかり考えて実施している。

【提言2・主催事業の応募率が高いので、市民のニーズにより応えるべきではないのか】

- コロナ禍であっても野外活動へのニーズがあり、事業への参加意識が高い。
- 毎年、主催事業の内容が異なり、工夫されている。
- 何度参加しても楽しんでいただけたと思う。

Q1-1 本年度、トレイルランニング事業の参加者が少なかったのはなぜか？

A1-1 原因としては、

- (1)ある程度の走力（ロードで5km程度走れる）がある方を対象としたため、走りに自信がない方にとって抵抗があったこと
- (2)ペア・グループでの募集にしたこと
- (3)1泊2日の事業にしたことから、2日間走ることへの難しさ、ペア・グループでの日程調整の難しさ等があったと考えられる。

来年度は、以下の3点を改善点としてトレラン事業を計画していく。

- (1)対象を初心者から経験者まで幅広く設定し、コースを選択できるようにする
- (2)個人でもグループでも応募ができる
- (3)比較的、仕事休みが多い日曜日の日帰り開催にする

また、井川出身の山岳ランナー・望月将悟さんを引き続き講師として招聘し、トレランの魅力を広く発信できる事業にしていく。また、スポーツショップ・アウトドアショップへの広報を拡充し、登山やハイキング、ランニング等に取り組んでいる方への周知にも取り組んでいく予定である。

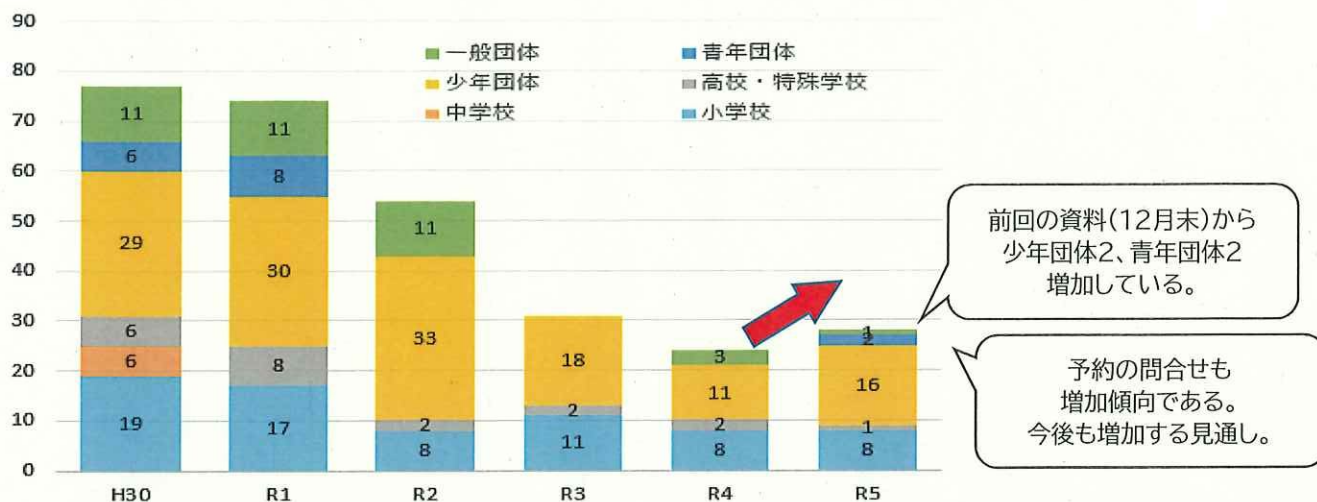
Q1-2 クリスマスリース作り以外の人気事業も複数回実施したらどうか？

A1-2 来年度のニーズや他の団体の予約状況、日程等を確認しながら検討していく。

- 「検討していきます」「取り組んでいく予定です」が具現化されることを願う。
- 近年アウトドアブームなので、体験事業（親子でキャンプ飯調理体験等）や自然観察（巣箱作りから始める野鳥観察会等）、昆虫や野鳥が必要とする植樹体験等の検討もしたらどうか。
- 「同じイベントだけど何回参加しても楽しい」「井川自然の家に来るなら他のイベントにも参加したい」という人が増える取組を引き続きお願いしたい。
- トレラン事業の参加増を期待している。
- 令和5年度はコロナの影響も少なくなるので、魅力あるプランを広く市民に伝え、利用者の増加を期待したい。

②「令和5年度 利用予定校及び利用団体」について

- 利用学校が増えない理由が解消できないのなら、個人利用のアピールをした方が良い。
- 県道トンネル(京塚橋～大沢戸橋)が開通するまでは一般客の拡大を狙うしかない。
- 新館・特別室の家族利用が増えると良い。インターネットで予約状況が分かると良い。
- インターネット予約が利用者増の追い風になると良い。常に改善していく必要がある。



Q2-1 スポーツ団体が多いが、体育協会等を通じたPRは行っているか？

A2-1 静岡市スポーツ協会（旧体育協会）等を通じたPRは行っていないが、駿府城R&Rステーション（協会）やアリーナがある市内の体育館（スポーツ振興課）へのチラシ等の配架は行っている。今後は、協会主催の事業等でチラシ配架などのPRを検討していく。

Q2-2 長期休み前に学校を通じて個人・団体利用のチラシ配布をしたらどうか？

A2-2 来年度は、5月頃に市内の小学4～6年生の各家庭に絞ってチラシの配架を行う。ただし、文科省より学校現場の事務作業を減らすために、家庭向けのプリント類はなるべく配布しない旨が出されているため、教職員の研修等に参加する先生方の力をお借りし、配架する予定である。

Q2-3 少年団体は多目的ホール(体育館)を使用するが、自然に触れる機会はあるか？

A2-3 練習の合間や朝夕などの空き時間に所内散策をし、五感を使って自然を体感してもらっている。また、泊を伴う団体には夜の星空観察を勧め、空気の澄んだ井川ならではの満天の星を見ていただいている。

- 素敵な家族部屋があるので、PRを進めていきたい。インターネットによる予約システムが功を奏することを願う。
- 年度当初の校長会でインフォメーションする機会を利用し、教職員をターゲットにしたらどうか？
- 冬の時期にスポーツ団体に利用していただく施策を検討して欲しい。
- インターネット予約システムの運用開始が待ち遠しい。使いやすいシステム設計になるよう改善も含めて運用して欲しい。
- コロナ禍や大型バスの運行が難しいので、学校の利用から個人や団体の利用への手段を模索するしかない。
- ネット利用により利用予約状況の確認や予約手続きはもとより、各利用団体向けの活動利用案などの閲覧ができれば親切かと思う。
- Facebookはきれいで見やすいので、フォロワー人数が伸びると良い。自然の家専用HPを作った方が利用者も見やすい。PRして子供達にも興味をもってもらえる自然の家であって欲しい。
- 「学校現場の事務作業を減らすためにプリント類をなるべく配布しない…」この方針はいかなものか？地域の活動や学校では体験できない活動へのチラシ配布は重要だと思う。教育委員会の協力をお願いしたい。

③「令和5年度 主催事業計画【案】」について

- どの事業も魅力的である。
- 閑散期を埋めるための工夫が今後の鍵になると思う。
- トレイルランニング、とても良い。シューズメーカーやスポーツショップと協賛できたら面白い。
- サイクリストのイベントもニーズがあると思う。
- 平日の主催事業が楽しみ。
- 平日の取組があるので、参加者の応募が気になる。今後の利用が広がれば良い。
- 家族企画や和田島の沢のぼりが楽しそう。

Q3-1 「食」に対する関心が高いので、井川の作物を使った料理の提供をしたらどうか？

A3-1 主催事業の一部において、井川本村での野菜収穫体験や在来作物の料理体験を実施している。また、食堂委託業者でも井川の作物を利用した食事を提供している。今後は、井川在来作物をPRしていきながら、利用者が関心をもつ取組を考えていく。

Q3-2 トレラン事業を数回開催し、井川 Mt.マラソン(11月)への参加を最終目標にしたらどうか？

A3-2 トレラン事業は、競技者人口の増加に伴い、利用者のニーズがあると感じている。回数については、期日や時期、他の主催事業等の関わりを考慮しながら検討していく。また、井川 Mt.マラソンの主催者側と申込時期など連携しながら企画を検討していきたい。

- バランスのとれた良い案である。希望者が多い事業は、追加募集できれば喜ばれると思う。
- 地域と協力して井川地区をめぐるロゲイニングの計画や支援ができれば良い。
- サイクリストのイベントを期待している。
- トレイルマラソン大会(R5/11/4)があると聞いている。参加者の前泊または事前のトレーニングのために利用してもらい、井川の在来作物についてもアピール出来たら良い。

協議事項「防災にもつながる自然体験活動プログラムについて」

- 遊びや体験を通して防災につながる良い企画である。
- 参加者同士が話し合い、アイデアを出し合うなど協力体制がとれる仕組みにすると良い。
- 講師は、実体験(被災者、アイデア例を実践して助かった方など)をされた方を招くと、リアルな現状を知る機会になる。
- 竹林があれば竹を使って食器、箸、竹串を作ったり、竹筒でご飯を炊いたりする体験も良い。
- 火起こしから一つの鍋で汁物やカレーを作る「炊き出し」の経験も重要である。(コロナの心配は残る)
- 災害とアウトドアの取組は、事業の組み方により目的や意図が異なってくる。井川での災害への取組を聞き、体験することで、今後に反映し、実感することも出てくる。

	活動プログラムのアイデア例	講師やスタッフ等の支援体制について	参加者のニーズなど	実施する際に留意すること
調理	牛乳パックやアルミホイルを活用した調理	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総務課、防災アドバイザー ・耐熱ポリ袋を使ってご飯も炊けるし、惣菜も作れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗い物が少なく、手が汚れない。 ・時短調理でガスの節約につながる ・活動に取り入れやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・カセットコンロを利用するが、コンロの扱いには注意
	ラップを敷いた皿を利用した食事	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総務課、防災アドバイザー ・ポリ袋、アルミ箔、クッキングシートでも可能 ・想定 of 被害状況で案内も体制も変わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗い物を減らす ・活動に取り入れやすい ・竹皿を作ったり、草(ハランなど)をお皿にしたりする ・地域でも体験可 ・瀬戸物(中)紙皿(外) 	<ul style="list-style-type: none"> ・節水の観点を指導 ・皿の大きさ
	空き缶を活用した飯盒炊飯	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総務課、防災アドバイザー ・普段の生活で缶がどれだけあるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味深い ・わざわざ用意しなければならない大きさか? 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のプログラムの一部として実施可能 ・缶の切り口による怪我
	アルファ米や缶詰など各自持参しての非常食体験	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総務課、防災アドバイザー ・レシピ本を活用して応用アイデア料理を作る ・野外活動の専門性を活かせる(指導職) 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期保存がきく。ひと手間かければ美味しい一品になる ・期限が切れたものを一工夫して利用 ・家でも出来る ・地域でも体験可 	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア(登山・ハイキング)で使う技術が災害でも役立つことを伝える
体験	懐中電灯とビニール袋のランタンづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・水を入れたペットボトルを乗せても明るくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味深い ・自治会の役員など防災担当の方に体験してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のプログラムの一部として実施可能 ・工作の手順
	火起こし体験	<ul style="list-style-type: none"> ・焚きつけとなるもの(麻紐、細い薪、マッチ)など事前準備が必要 ・野外活動の専門性を活かせる(指導職) ・災害の火起こしで何を取り上げるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の役員など防災担当の方に体験してもらう ・火おこしは楽しい ・起こした火でマシュマロ焼きは喜ぶ ・どんな資材があれば火を起こせるのか、どういふ場所なら可能なのか、どういふ目的で行うのかという議論を行う ・アウトドアキャンプとの区別や違い 	<ul style="list-style-type: none"> ・火の取り扱いを十分注意させる ・火傷注意 ・災害時に実際に使いたいようなもので実施
	多目的ホール(体育館)でテント泊体験	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単に立てられる ・ドームテントで体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の役員など防災担当の方に体験してもらう ・テントで寝たことがない子供・大人は楽しい体験 ・雨でも実施可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さ、暗闇を体験するには良い ・配置 ・貸出か持参か ・時期による対応
	避難所生活体験(ダンボールベッド体験)		<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の役員など防災担当の方に体験してもらう ・子どもは楽しめる ・体育館での体験の方が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・配置 ・段ボールの数 ・組み立て時間
	夜間の避難訓練(ナイトウォーキング)	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れない行動で、転んだり、つまずいたりしないように安全対策をする ・野外活動の専門性を活かせる(指導職) ・ヘッドライト有無で配慮異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の役員など防災担当の方に体験してもらう ・夜間の暗い中での避難訓練は必要? ・どこへ逃げるのか? ・ナイトハイクとの区別 	<ul style="list-style-type: none"> ・暗闇での活動経験に意味がある ・ルートは屋内?屋外?

その他 (運営委員からのアイデア)	ドラム缶を使った焼き芋			
	応急処置の基本 (止血・副木・三角巾)	赤十字		
	ロープワークの基本 (丸太つなぎ・身体の固定)	ボーイスカウト		
	水の確保 限られた水の量で生活(キャンプ)する	・節水方法 ・水を貯める方法・野外活動の専門性を活かせる(指導職)		・アウトドア(登山・ハイキング)で使う技術が災害でも役立つことを伝える
	トイレ	・市販の携帯トイレ体験 ・自作の簡易トイレ	・屋外トイレ(穴掘り)の作り方	

：計画の参考になったキーワード

《委員からの意見を参考に、来年度の主催事業で取り組めそうな活動プログラム》

活動プログラム名	タイトル	内容	取り扱う主催事業	つながる防災(被災)
エコ・クッキング	節水を意識して調理してみよう	洗い物を少なくする工夫を体験する。 (ラップ、ポリ袋、アルミ箔、クッキングシートを利用して調理や食事を行う)	・井川 de アウトドアクッキング ・井川 de ファミリーオータムキャンプ	・断水時 ・貯蔵している保存水が少ない時
	火の扱い方を学んでみよう	割りばし以外の焚きつけを利用して火を起こす。(牛乳パック、松ぼっくりなど)		・停電時 ・ガス無供給時
	器具を使わずに手軽に調理してみよう	耐熱ポリ袋、空き缶、牛乳パックを利用して調理をする		・断水時 ・調理器具が無い時
夜の楽しみ方	灯りの便利さや大切さを体験してみよう	ビニール袋やペットボトルを利用してランタンを作る。	・トム・ソーヤチャレンジキャンプ ・トム・ソーヤオータムキャンプ	・停電時(夜間)
	ヘッドライトを使って歩いてみよう	暗い敷地内をヘッドライトの光のみで歩き、両手が空く必要性と灯りの大切さに気付く。		
ドラム缶 BBQ	ドラム缶で調理してみよう	かまどを利用せず、ドラム缶を使って BBQ を行う。将来的に炊き出しの活動につなげたい。	・井川 de トレラン&夏体験	・集団による調理時
トイレ体験	携帯トイレを体験してみよう	各自で携帯トイレを経験し、抵抗感を軽減する。	・井川 de トレラン&夏体験 ・トム・ソーヤチャレンジキャンプ	・断水時 ・トイレ使用不可時

●防災にアウトドアを加えたプログラムを考えてみたらどうか？ 防災だけでは間口が狭くなる。キャンプのノウハウが防災にも役立つというコンセプトにしたら良いのでは？

●新しいプログラムは計画も実行も労力がかかるが、ぜひ発展していくことを願う。

●火起こし、節水調理、防災品の体験などは、大人も子供も興味をもつアイデアである。自治会などの防災担当者向けにはサバイバルを意識した体験、親子の参加では調理やテント泊の疑似体験など、対象年齢に応じた計画案ができると思う。

●可能な範囲でプログラムを計画し、実践して欲しいと思う。

●自治会役員にターゲットを絞ってもよい。

委員の方々からの意見を参考に、今後もより良い自然の家の運営をしていきたい。

また、令和7年度より両河内地区自然の家(仮称)が再開される予定である。運営協議会内でも新しい自然の家の在り方についてご意見を頂戴したいと考えている。

静岡市の両自然の家発展のために、今後もますますのご協力を賜りたい。

令和 5 年 3 月 9 日 静岡市自然の家運営協議会
議事録署名人

櫻井 守